

## 研修報告書 No.3

研修先： 土佐市民病院

このたび地域医療研修として、2022年5月1日から5月31日までの1か月間、土佐市民病院にて研修をさせていただきました。今回の研修で学んだことを、報告書としてまとめさせていただきます。

研修は、外来診療を中心に行わせていただきました。一般的に、臨床研修はどこの病院であつても入院患者さんを診させていただくことが多く、外来診療を研修医がやらせていただく機会は少ないため、今回の研修はかけがえのない経験となりました。

外来診療は入院患者さんとは違い、受診していただいたそのタイミングでしか患者さんを診ることができません。今思えば当たり前のことですが、入院患者さんばかり診察してきた私にとって、まずそのことを認識することからすべてが始まりました。時節柄、発熱でコロナを心配して受診される患者さんが多かったのですが、一口に発熱を主訴に受診したと言っても、その状況は様々です。学校の定期試験を控えた高校生、家に身体の弱った両親と同居している社会人、デイサービスを日々の楽しみにしているご老人などなど。体調も人それぞれで、発熱のみでいたって元気な方から、全身の筋肉痛や夜中の咳で眠れず弱っている方まで、とても同じ診療ではやっていけませんでした。それら個人の事情を、外来診療の限られた時間でなるべく多く把握し、少しでも安心して家に帰っていただけるように声をかけて検査をし、薬を処方するという仕事は、想像していた何倍も難しかったです。自分の裁量で患者さんの生活を変えてしまうのではないかという不安がとても大きかったです。方針や対応に悩んだ際はすぐに上級医に相談できる体制を整えていただいていたため、なんとかやり遂げることができました。この経験は自分の中で大きな自信になりました。

入院患者さんの診療も、主治医として何名か担当させていただきました。普段の研修ではあくまで上級医が主治医で、傍らでそれを学ぶという形が多いため、自分が主治医をさせていただけるというのは大変恐れ多かったです。カルテ上の事務的な作業から病状説明、治療、退院に向けた方針決定まで全てを担当させていただく中で、医師としての仕事を学びました。その際も上級医の先生が丁寧にサポートしてくださり、また直接の上級医ではない先生も常に自分を気にかけてくださって、親身に相談に乗っていただけたことが大変印象的でした。

他院への救急搬送に同乗させていただく機会にも恵まれました。土佐市民病院の限られた医療資源では治療が困難な患者さんを、高知市の大きな病院へ転院搬送する救急車に同乗させていただいたのですが、これも東京の大学病院の研修ではなかなか経験できないことでした。土佐市から高知市までは救急車で約1時間、揺れの激しい道が続きます。医師は自分しかいません。幸いこの患者さんが急変することはありませんでしたが、何かあつたと

きに焦らず対応できるよう、日ごろから緊張感を持って診療にあたらねばならないと思いを強くしました。

そのほか空いた時間には、検査の見学をさせていただいたり、他科の外来を見学させていただいたりしました。縁あって小児科の外来を見学させていただく機会が多かったのですが、特に小児科志望というわけではない私に大変あたたかく接していただき、医療人としてどう生きるべきか、周りのスタッフとの接し方など、社会人としてまだまだ未熟な私に多くのことを教えていただき、かけがえのない時間でした。

1か月という短い期間でしたが、土佐市民病院での地域医療研修を通して、普段の東京の研修では経験できない多くのことを学ばせていただきました。今回の研修をサポートしてくださった高知医療再生機構の皆様、土佐市民病院の先生方やスタッフの皆様、そして何より患者様、市民の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。